

V. 特記事項

＜東黒牧キャンパスの森づくりと自然環境を生かした教育・保育の展開＞

緑豊かな東黒牧キャンパスに、平成 18(2006)年度に学生と教職員の協働による「環境サークル」が発足し、「とやまの森づくりサポートセンター」「NPO 法人きんたろう倶楽部」の協力を得て里山整備活動を開始した。また、大和ハウス工業株式会社とも森づくりに関する協定を結んでいる。現在、森林整備は毎年春～秋に 3 回程度実施している。

令和 3(2021)年度からは、「持続可能な社会」を採求する教育の推進等を目的に、富山国際学園福祉会（にながわ保育園・西田地方保育園）と連携して「森づくり」プロジェクトを開始した。子どもたちが安心して自然と触れ合える場の提供、保育園児やその保護者、福祉会職員と学生・教職員の協働による森づくり活動を行っている。令和 5(2023)年度は、にながわ保育園が 7 回、西田地方保育園が 6 回活動した。活動内容としては、干し柿づくりや昆虫採集などが挙げられる。様々な動植物や自然とのふれあいの中で、近年幼児教育において重要視されてきている非認知能力を育むよい機会となっている。

一方、大学内の空き地に繁茂する雑草を、手間をかけず二酸化炭素も出さずに除草する方法として、令和 4(2022)年度からヤギによるキャンパス内除草を試みている。学生にも人気で、95%以上の学生が好意的に受けとめている。令和 5(2023)年度には、学生の「SDGs 推進サークル」が主体となり、ヤギの頭数を増やし飼育期間も延長して活動を活発化させている。この活動は、学生の卒業研究にも役立っている。

豊かな自然に囲まれた東黒牧キャンパスならではのこれらの取組みは、本学の基本理念にある「共存・共生の精神」を当に具現化した活動ともなっており、今後も継続して積極的な活動を実施していく。



保育園児が干し柿づくりに挑戦



森で遊ぶ園児たち



ヤギと触れ合う学生たち



草を食み除草に貢献